

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第1回 松阪市社会教育委員会議
2. 開 催 日 時	令和4年7月7日(木) 午後2時00分～午後3時35分
3. 開 催 場 所	橋西地区市民センター 大会議室
4. 出席者氏名	(委 員) ◎山本哲司、岡田辰也、尾崎太河、垣本長生、亀田孝子、 桑山秀治、阪井正弘、佐々木節子、鈴木寛子、床呂さや子、 平岡令孝、森本小百合、渡邊幸香 《◎委員長》 (事務局) 中田教育長、刀根局長、村田局次長、尼子教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱兼香肌峡エスコート員、大辻学校支援担当参事兼学校支援課長事務取扱、中西子ども支援研究担当参事兼子ども支援研究センター所長事務取扱、北村飯南飯高コミュニティ・スクール担当参事兼西部教育事務所長、金谷学校教育課長、池田生涯学習課長、赤塚松阪公民館担当監、若山スポーツ課長、林スポーツ課中部台管理事務所長、瀬古給食管理課長兼松阪市学校給食センターベルランチ所長、橋本北部教育事務所長兼北部学校給食センター所長事務取扱、生涯学習係
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 生涯学習課 TFL 0598-53-4396 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

○協議事項・議事録
別紙参照

令和4年度 第1回松阪市社会教育委員会 会議録（要旨）

○日時：令和4年7月7日（木） 14時00分～15時35分

○開催場所：橋西地区市民センター 大会議室

○議題

1. 委嘱状交付
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 協議（報告）事項
 - (1) 令和4年度教育予算について
 - (2) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）
 - (3) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）
 - (4) 松阪地区公民館のコミュニティセンター化に向けての協議について（松阪公民館）
5. その他

○出席者：山本委員長、平岡副委員長、岡田委員、尾崎委員、垣本委員、亀田委員、桑山委員、阪井委員、佐々木委員、鈴木委員、床呂委員、森本委員、渡邊委員

○欠席者：駒田委員、廣地委員

◆ 議事

(1) 令和4年度教育予算について

意見なし

(2) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）

委員 6月に1回、7月に1回、誘拐というようなメールがあったと思います。学校から各保護者さんにメールをして、地域におろしていただいているところとそうでないところがあると思いました。その辺を、例えば学校が判断をして地域におろしているのか、もう何も言わずにおこうとなっているのか、統一してそういう指示がおりなのか、私たちの地域はコミュニティスクールがないが、校長先生から私たちの方にご連絡いただいて、私たちの方から見守り隊とかいろいろあるので、そちらの方におろしていくということができましたが、違う学校の保護者から、全然私たち知らなかったとか全然地域は全く聞いてないとか色々ありましたので、いたずらで終われば良いですけども、もしも何かあったときに6月、7月と1ヶ月ずつ送られているので、その辺の対応を聞かせていただければと思います。

事務局 6月、7月と2回連続で、予想によると愉快犯ではないかなとは思いますが、ただ万一のことがあってはいけませんので、もちろん警察とも協議をしまして、県内に同じようなメールが送られていましたので県教委の方とも協議をしまして、もちろん松阪市役所の地域安全対策課とか危機管理の方とも協議を重ねまして、1回目のメールにつきましては保護者の方にまずは知らせるところで、全て保護者の方にメールは行ったと思います。小学校へは、登下校の見守りをしてくださる方がたくさんみえるということで、小学校の登下校の見守りボランティア、またはCSの中の登下校の見守りをしている方にきちんと届くようにとのことで、保護者と登下校の見守りの組織の方にといいところで通知を差し上げたつもりでしたが、ただ中々学校の方も把握していない組織が見守りをしてくださっているところもあって、学校の方が全て把握していたら良いのですが、自主的に青色のパトロールカーで回っていただくなど、ずっとどの団体にも所属しないで自分は必ず子どもたちの登下校を見守っているという方がみえたので、中々ものすごく周知できたというのは1回目の時にはいかなくて、これはたくさんの方から知らなかったっていう話を先ほどの委員さんが言われたようにいただきましたので、2回目には周知を徹底しようというところで、私共の方から地域の方に流させていただいた部分もありますし、学校が必ず登下校の見守りをしていただいている個人や組織を把握していただいて、その把握した個人や組

織にどうやったら連絡がいくのかというところを学校の方で調べてもらって、そこへ必ず連絡が行くように1回目よりは2回目はかなり配慮してお届けしたつもりではあったのですが、やはりそれでも中々うちは届かなかったというお声もいただきましたので、学校の保護者で「きずなメール」とか「町コミ」とかをもっているようなところがありますので、見守りの方にメールの登録をお願いしますというプリントをこれから渡させてもらったり、次にこういうことがあってはいけないうすけれども、次々と漏れがないように私共も学校の方も、少しずつ漏れがないよう広げていくように松阪市役所とも連携をして考えていきたいと思っておりますので、もし届かないという方がみえたら学校へ連絡をくださると、その連絡方法というのは必ず学校がお答えすると思っておりますので、その辺を助けていただけると大変ありがたいです。

委員 ありがとうございます。この前、校長先生がわざわざ聞きに来ていただきました。地域にある把握していない団体はないでしょうかということ、いくつか各自自治会長さんともお話いただいて、意見交換をさせていただいて、また漏れはないか確認もさせていただきながらお話させていただきました。ありがとうございます。よく分かりました。

事務局 誘拐メールの話がありましたので少し補足をさせていただきます。実状は、学校が地域の方々に状況がこういうことやと言うことには限界があります。Aさんへは言ってBさんへは言わないということもありますので、2回目はそれぞれの市の担当部局から言うようにしました。学校が朝のてんやわんやする中で全部連絡するというのはなかなか難しいです。関係部局から言うようにします。そこで漏れてきたものについてはどこでフォローするのか関係部局で調整していきたいです。例えば住民協議会から学校へ行く場合、関係部局から学校へ行く場合、2つあります。学校から行かない場合も当然出てきます。今回の場合で、私どもがある方からご指摘をいただいております。なんでもっと早く知らせてくれなかったのかと言われました。ただ、今学校には借金等で自分の住む場所を奪われ、松阪へ引っ越してきた方がいます。DVで自分の住んだる場所から逃げてきた子がいます。あるいは親権問題で悩んで実家に住めないような子もいます。DV、半グレ、ネグレクトのような子ども達もいます。そんな子ども達はこういう報道があった時に、ひょっとして自分ではないだろうかとすごく不安になります。だから今回、1回目の当日、数字は公表しませんが1桁の10よりも多い数字、これだけの子が休みます。当日に。そして、70人を超える子ども達が保護者と一緒に来ます。だからあの報道やあの行動がそういう子ども達にもすごい心の影響を与えます。だから前日に言えば言うほど、そういう子ども達が増えてくる

わけです。そういう子ども達が不安になってきます。その間、学校はその子ども達にしっかり寄り添います。心配ない、何か思うことあったら言って。その甲斐あって2回目の報道の時には、たった2人になりました。先生方あるいは地域の方々のご努力あったのかなと思います。もちろん、私共もきちんと実態把握をして、その中で例えば学校にそういう問い合わせの電話があったとか、なかったとか、そののちろんしっかり調べさせていただきます。幸いにもそこはなかったです。だからそんなに厳正な体制ではなくて警察に言ってちゃんと登下校の案内をしたり、できる限りのことをしました。ただ2回目に心配だったのはこういうことです。全国でこんなやつたら俺らもできるのではないかとそんな発想で、地域はこの期間に3件不審者の情報があります。声掛け事案があります。学校でしっかりとこういう場合は、「いかのおすし」とかって言いますが、絶対に逃げなあかんでということ徹底してありましたので、その女の子も自分の家やけどもピンポンを押して家に入ったらその男もどこかに行ったそうです。私共がやっぱり心配しているのは、模倣犯であるかもしれませんし、誘拐犯かもわかりませんが、この報道によって学校の中でそれだけの子が苦しんでいます。その子にとって寄り添っているのかと。もう一つは、これはある事例ですけども、小学校2年生の女の子がお父さんと一緒にテレビ観ていて、ニュースでウクライナの1つのビルの地下で5人が焼き殺されたという報道がありました。本当に報道の垂れ流しですよ。それを聞いた小学校2年生の女の子は涙を浮かべながら父ちゃんに「怖い。」と言いました。でも父ちゃんは抱きしめながら「大丈夫やよ、俺が守った。母ちゃんも守ってくれるし。あんたのことを朝登下校で見守ってくれとるおじちゃんやおばちゃんもみんなあんたのこと守ってくれるんやで。」と言ったら子どもは安心しました。自分は今回のことで、見守り体制がどうかじゃなくて、そういう状況にある子ども達を、あるいは今の世の中が不安定で先の見えない不安な状況にある子ども達を、地域の方々がしっかり見守っていただける。そういうことが、不安定な子ども達を支えていくと思います。ですので、自分がいるときに確実にこれだけはやれと言っているのが、保護者に連絡をすることです。今はどの学校も保護者メールがありますので、おじいちゃんおばあちゃんが保護者というような、ない場合は必ず電話を入れます。だから保護者に100%伝わっていると思います。ただ地域に伝わった、伝わらなかったということについては学校には限界がありますので、できる限り関係部局のご協力をいただきながら進めていきたいなと思います。子ども達に「みんなが守ってくれとるんやよ。」って言うのを今回わかったということです。そのことを子ども達にしっかり伝えてもらおうと思います。いろんなところで声掛けがあり、自分も当日朝と放課後、子どもらが帰っている様子を見に行きました。やっぱり地域の方が一人ひとりに声をかけてくれたり、地域の方が外へ出て子どもらの登下校を見

守ってくれとるといふのも本当にありがたいことですので、そういった部分もしていく必要があると思います。教育委員会の方からも郵便配達屋さんにもお願いをしました。あと、ガソリンスタンドであるとか、そうやって歩いてもらっているような方々にも今後、協力をお願いしていきたいなと思います。今回、本当に感謝したいなと思ったのは、多くの方にご協力いただきましたこと、また松阪警察署の方には本当に丁寧に見守り強化をしていただいて、見える形で動いていたというのには本当にありがたかったと思います。

委員 以前、明和の方で日本語指導をさせていただいた経緯がありまして、4月に入って、知り合いから外国籍の1年生の子が7人も入ってきてしまった。先生が一人しかいないから、なんとかしてほしいという形のお話をいただきました。私も一緒に悩んだのですが、きっと先生は大変やろうなと思います。2ヶ月以上経ったので子ども達も落ち着いてはきましたけれども、あの現状を本当に先生一人ではできるものではないです。1対1でやっても日本語が通じるという最低ラインで理解し合えることはあっても、日本語すら通じない人たちが7人、それも国籍の違う子ども達が見えています。私が行かせていただいたときは、教頭先生も来ていただいたり、お手隙の先生たちも来ていただいたりして2人もしくは3人で見ていたような状況ですけれども、中々それもそのまま改善されなかった状況ですから、私のご近所の学校に行ってみえた方に声をかけて、その方と行かせていただいているというような状態です。その子たちが算数と国語だけ取り出してやっているみたいですけど、教室に帰った時にそれなりの支援が得られているのかなという不安がありまして、支援に入っている方に大丈夫なんかなと聞きましたら、お客さんでいるという形です。わかっているけどわかっていなくてもスルーして、ほとんどが理解されずにいくという話を聞きました。私も明和町でしていたのは、5年生の初めてインドネシアから来た子で、3～4時間付きっきりで教えていたのですが、教室についていったときに先生から社会や理科の時に質問されてもニコニコしているのです。先生の方は無理もないとは思いますが、もうわかるとるんやなこの子はという感じで飛ばされてはいくのですが、結局この子は何もわかっていないという現実も見てきていますから、1年生、2年生の間にもうちょっと補助の方が入れられるように、教室の方にこそ補助をいただけたらなと思います。先生のご苦勞もずいぶん落ち着いてはきましたけれども、やっぱり課題が段々難しくなってきたり、単語から繋がり言葉になってきますと大変な思いもあります。やはり一対一とまではいかななくても、せめて初めの間は十分な手立てをしてやっていただきたいなと思っております。

事務局 今、本市の大きな課題の一つが外国籍の児童生徒への支援です。ただ、他の市との大きな違いというのは、私共は、幼稚園の子はふたば教室、小中の子はいっぼ教室と言って、初期型の適応指導型教室を作っています。その子ども達は、これは近隣のところにはない制度ですけれども、いっぼ教室に来て、そこで午前中学びます。これは大体、子どもにとって基本的な日常会話であったり、基本的な日本の習慣であったり、ピアスを開けるとかっていう価値観も含めて、そういうことを大体6ヶ月か長い子なら8ヶ月間ぐらいあそこで学びます。午前中はここで学んで、午後からそれぞれの学校へ行きます。ですので、4月あたりについては、適応する教室の方と、いっぼ教室の方、こちらの方でなかなか循環がうまくいかなかった部分もあるかと思います。ただ、これはある大学の先生の実証実験の研究ですが、本市のようにいっぼ教室のような適応指導型を作っているところと、個別での対応でやっているところを比べると、やっぱり子どもたちが同じような境遇の子が話をしながらできる、ある一定の人数集団がおるところの方が、適応能力が高いって言われています。私共としては各学校2つずつぐらいから入れますけれども、うちはその30、40という、特に第一小学校であるとか殿町中学校っていうある程度の拠点のところまで集まっていますのでそういうところには加配をつけて対応をしっかりとしています。徳和も加配をつけて対応をしておりますが、中々上手くいかない部分もありますので、ただそれについては、例えば教材を使うであるとか、その指導についてはどういうふうに行きたいかとか、いっぼ教室がもう少し時間的に行けばどうかとかですね、ある程度できるまではもう学校へ来ないようにというやり方は、1回やりましたが、そのやり方はやっぱり子どもにとっては上手くいかないということでした。並行しながら進めていくというのが今現状ですね。加配については、県教育委員会ともしっかりと話をさせていただきます。徳和にはついておりますので、その活用と共に、地域の方々にもご協力いただいてコミュニティスクールの中で活動していただく中の一つとしてやっていただいているということもございます。そういったところも活用しながら、今現状も理解させていただきましたし、今後うちとしてもそのあたりを県の方にも話をしながら進めていきたいなと思います。

現在、4月からは4人でスタートしましたが、やはり日本へ外国の方が入ってみえたということで、現在13人になりました。今度、7月13日にまた1人いらっしゃるということで、14人になります。1年生はいっぼ教室には来ていただいていなくて、2年生から来ております。1年生はやっぱりひらがなを学校でもお友達と一緒に習うっていうのがありますので、第二小学校は母語スタッフさん、こちらから派遣ということで、1年生の子についたりとか、できるところはこのようにさせていただきますが、中々それでも人数が増えてきておりますので、ちょっと行き届かないところがあるかと思います。

(3) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）

意見なし

(4) 松阪地区公民館のコミュニティセンター化に向けての協議について（松阪公民館）

委員 要望です。実は6月3日は連絡協議会の総会で丁寧な説明を事務局の方からいただきましたが、やはり具体的にそういう方向性は出ているけれども具体的に、例えば経済的な問題、財政的な問題とか人的な問題とか非常に不安があります。たくさん意見が出まして、その辺のところを改めて地域づくり連携課、教育委員会の方から今後も引き続き丁寧な説明と、それから指導をお願いしたいという要望でございます。特に公民館の場合、色んなパターンがございます。私共のように地区市民センターと公民館が一緒になっているようなケース、それから公民館単独のようなケースがありますので、非常に当事者としては非常に不安な部分もありますので、引き続きしっかりしたご指導をいただきたいということでございます。

事務局 今、市長は「市長と語る会」という形で各地域を回っております。今の方向性として、大体例えば一番やっぱり人件費です。何人雇えるお金を渡すのかとか、他のときにどれだけいただけるのかとか、そういうところだけやっぱり一番ポイントになってくると思うのですが、昨日西黒部公民館に行ってきたして、市長の話は、今回の市長と語る会をなぜ必要かっていう必要性を訴えた上で、それが終わってから各地域へ、具体的な数字も含めて説明をさせていただきたいということで市長の説明がありました。この方法でおそらく進んでいくのだろうと思います。大石の地区でも8月上旬にたぶん予定されていると思います。それが全体で終わってからのなるとは思いますが、また説明に行かせていただくことになるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

◆その他

委員 住民自治協議会が既にスタートしていますが、コミュニティスクールにコーディネーターの存在があるのかと思っておりますが、その管轄といいますかそのコーディネーターの仕事とか、それはすべて住民自治協議会が把握するのですか。

事務局 CSのコーディネーターというのは私の話の中でも2つ言ったかと思います。学校運営協議会で、目指す子ども像を話し合っ、どのような取り組みが必要かとかどのような課題が必要かっていう学校運営協議会と、それから地域学校協働活動といいまして、いろんな活動を学校の為にしてくださるボランティアの方がみえますので、その二つを繋いでいただく役割を、CSのコーディネーターにはお願いを今していますので、その中で住民自治協議会の方にも関わっていただいているのでしょうか。いろんな地域の方のお話を聞いたりとか。

委員 私も、自分の校区ではコミュニティスクール化がされていないものですが、具体的にはわからないですけれども、伺ったところによりますとコーディネーターが配置されているというような話を学校支援課にお話を伺いに行ったときに聞かせていただいたので、それは全校に置かれるようになるのですか。

事務局 現在は、置いている学校と置いていない学校があります。令和6年にすべてコミュニティスクールを導入して参りますので、全ての学校にコーディネーターが必要になってきますのでその二つを結び付けていかないといけないのでそれを目指して今活動しております。

委員 コーディネーターさんのことで、研修に参加させていただいて、レポート書かなければならなかったのも、3年ほど前にコーディネーター研修があるということで生涯学習課からお話をいただいて、研修を受けさせていただきました。その中で松阪からも何人かいました、3年目になってきまして松阪からの人数も減っております、お話を聞かせていただきますとコーディネーターの役割というのは、これから正念場かなっていう風に思っているのですが、結局あっちのコーディネーターとこちらのコーディネーターのこういう言い方が良いのかわかりませんが、やはり力にも、初めて参加いただいた方もいたと思いますので、しっかりした方がいらっしやいますので、そこはコーディネーター大丈夫かなとこないだも言っていたのですけれども、そういう人たちの教育ってというのは、どこがなさっているのですか。

事務局 全員のコーディネーターさんではないですけれども各地区のコーディネーターさんで代表を決めてもらって、その方々が先日も出ていただいて、いろいろと情報交換をしていただいたり、それから私共の方から説明をさせていただいたりする、コーディネーターの協議会のようなものを年2回開いておりますので、もう1回おそらく年度末に開かれると思いますが、その辺はご参加いただ

いた方から簡単にご説明いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員 今コーディネーターの話があったので、一点情報共有になりますが、私は小野江小学校の学校運営協議会で委員長をさせていただいています。公民館の主事がコーディネーターをしているのですが、必ずしも主事さんがされるということではなくて学校と相談していく中で、その小学校の中では公民館の主事が地域の方に結び付けていただくには最適な方ということで、本当に日頃からお世話になっておりました活動していただいているのですが、近くの小学校のコーディネーターはというと、保護者の方ということで、そちらは本当に学校長のご判断とかもあって決められていると思います。ご紹介があった研修会というのは、私も松阪市の研修会と県が主催している研修会、こちらの方と一緒にさせてもらいましたが、まずそのおっしゃられた会議が、地域と共にある学校づくり推進協議会で、こちらが2回ほど開催で自分が座長ということで進めさせてもらった中で、このコーディネーターだけでなく、実際の学校現場に携わっていただいている校長先生にも出席していただいて、いろんな方が子ども達を中心に据えてどうやって松阪市の子どもたちにより良い教育をしていこうかというような会議を進めていく中で、やっぱりコーディネーターというのはおっしゃられたように、不安なこともたくさんある中で、座席のところでは実状を共有しながら自分のところに持って帰って、活かしていくっていう場を提供してもらって。昨年度は1回だけだったのですが、本当にすごく内容が濃い充実した会議で、ぜひ来年度は増やして欲しいと要望を申し上げたところ今年度は早速期初に設けていただいて、また年度末になってより深めた学びに対して実践できたかどうかも含めてしていこうということで、コーディネーターに関してもおそらく設置校が増えていけば、そういった繋がりをもっとお待ちいただけるということでぜひご要望をしたいなと思っています。その他にも県の方でもコーディネーターの研修講座があって、私も昨年度の研修会に出させてもらったのですが、コロナ禍だったので会場に行くことができずに自宅から出させてもらったのですが、大変有意義な会議でやっぱり同じような形で三重県全体の困りごとと、こうしていったら子どもたちが育んでいけるかなということ、市町を越えて共有できる機会があったので、そちらはどんどんそういう風に実践させていただけるとコーディネーターの役割であったり、三重県でこんなことも育んでいきたいなというような時間に繋がっていくようなことは率先してやってもらっていますのでいろんな機会を使って、現地であったりオンラインであったりという工夫を凝らして、ぜひ実践をしていただきたいなというふうに感じております。私は一つだけもしこの機会にお時間があればぜひご紹介いただきたい事業がありまして、教育委員会の方で今子どもたちのいろいろ

ろな実情の中で、ネグレクトとか虐待もあった中で不登校のお子さんがすごく増えているということで、松阪市の方では市の予算の方を通していただいて、いきいき学校プロジェクトを立ち上げてもらったというお話を聞かせてもらって、不登校の未然防止であったり、復帰支援であったり、ICTの活用であったりだとか、本当に素晴らしい話だったので、せっかくこの機会ですのでそちらに関して皆さんに知っていただくと、学校運営協議会の方へ学校の課題解決に向けて進んでいけるかなと思いましたので、簡単にご紹介いただけたらと思うのでよろしくをお願いします。

事務局 コロナ禍で大変子ども達は制限のある学校生活を送っておりまして、もう本当に心身ともに不安定な状況になっているというところで、まだ詳しい数字は出てないのですが、おそらく令和3年、昨年度におきましては不登校の数がものすごく増えるのではないかなという風に考えております。それで私共の方でこのコロナ禍で心身ともに不安定な子ども達、不登校児童、生徒に何とか、増加に歯止めをかける、全てなくすっていうことは今の子どもたちの状態から考えても難しいですので、何とか数に歯止めをかけるっていうことと、それと全員を学校へ出させるっていうこともちょっと難しい状況もありますので、それぞれの子どもに合わせて、必ず周りの誰かと、何らかの形で繋がりを持てるようにというところを目指しまして、3年間限定で重点的に取り組みたいというところで先ほど紹介をいただきました、いきいき学校プロジェクトっていう事業を今年度から始めております。それにつきましては、三本の柱がありまして、1本目は不登校の未然防止です。不登校になる子どもたちを未然に防ぐために全小中学校で、人との関わりをなんとか円滑に進められるようにソーシャルスキルトレーニングっていうのを全部の学校で、教師も学びながら子どもたちに取り入れていって、不登校にならない居心地のよい学級づくり、学校づくりができるようにというのが、1本目の柱になります。2本目の柱につきましては、居場所づくりとできるだけ教室向き支援につなげたいっていうあたりで、学校には来れるが別室で勉強している子たち、教室に入れないう子たち、それから子ども支援研究センターの方に鈴の森やまゆりといった、不登校の子ども達が行く教室があるのですが、中々そこに向けては自分もちょっと距離が例えば遠く感じたり、あと鈴の森を見学に行ったけど自分にはちょっと雰囲気合わないと思うようなお子さんもみえますので、その子たちがなんとか校区の中で通いやすいような教室を作っていきたいなということで、中学校区にふれあい教室っていう、中部校区に鈴の森があるようなものを増やしていこうということで、今それについても取り組んでおります。学校の中で、別室には来れるが教室へ戻っていけないっていう子ども達のために、別室で支援を

いろいろ相談相手になったりとか話し相手になったりとか、勉強も少しずつ教えたりというような形の別室の支援の方も同時に行っていくということで、取り組みを行っております。これについては、例えば元養護教諭、元校長先生、元教員の方を10人コネクトサポーターということでお雇いしまして、別室に行けばその方々が必ずいます。そして、何かの時には家庭訪問等もしてくれます。そして、子ども達への声かけを一緒に別室で支援している教員も学べるというようなあたりの効果もありまして、少しずつ取り組みが進められているところです。それが二つ目の柱になります。三つ目の柱につきましては、ICTを活用した支援ということで、家にこもりがちで外へ出て行けない子たちが何らかの空間で繋がる場所ができないかっていうところで、今ちょっと試行錯誤しながら、オンラインでチャットのような形で他の子たちと繋がったり、それから指導員と繋がったり、そこでたわいもない話をして、繋がりを実感したりっていうようなことができるような、ICTを活用した支援っていうのも同時に考えていくっていう取り組みを少しずつ、始めさせてもらっています。4月から始まったばかりですので、効果っていう面ではまだまだ見えないところがあるのですが、今年度浸透させていきたいという風に思っておりますので、また各地域の学校に行かれたときに、別室に違う先生がおるなと思ったら多分その人はコネクトサポーターですので、声をかけていただいたり、どんな学習をしているのか覗いていただいたりするのでもいいかなと思いますのでよろしくお願ひします。

以上